

時間割コード	KB7601	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語 I				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語 I (総合)

授業の概要/Course Overview

- ①研究活動に必要な速読（スキミング、スキミング、予測・類推、索引・目次の利用法等）の技術を学ぶ。
- ②新聞記事、雑誌記事、専門書の抜粋等の読解教材を用いて「自分」に必要な情報を得るための技術を学ぶ。
- ③読解教材を用いて「自分」に必要な情報を得る練習をする。

キーワード/Keyword(s)

速読、内容指向の読解、スキミング、スキミング、速読実践練習

到達目標/Learning Objectives

- ①必要な情報や知識だけ、素早くつかみ取ることができる。
- ②様々な資料から大意把握、情報取りができる。
- ③日本人の読み方に近いスピードで日本語を読み、必要な情報がつかみ取れる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- ①オリエンテーション、作文テスト(テーマ「10年後の私」)
- ②スキミング技術、目次・索引の利用、読解教材を用いた実践練習 I
- ③スキミング技術、目次・索引の利用、読解教材を用いた実践練習 II
- ④スキミングの技術、キーワード探し、読解教材を用いた実践練習 I
- ⑤スキミングの技術、キーワード探し、読解教材を用いた実践練習 II
- ⑥スキミングとスキミングの併用、速読実践練習、読解教材を用いた実践練習 I
- ⑦スキミングとスキミングの併用、速読実践練習、読解教材を用いた実践練習 II
- ⑧スキミングとスキミングの併用、速読実践練習、読解教材を用いた実践練習 III
- ⑨前半の復習、確認テスト
- ⑩読解練習、要約練習、文章表現指導、読解教材を用いた実践練習 I
- ⑪読解練習、要約練習、文章表現指導、読解教材を用いた実践練習 II
- ⑫読解練習、要約練習、文章表現指導、読解教材を用いた実践練習 III
- ⑬読解練習、要約練習、文章表現指導、読解教材を用いた実践練習 IV
- ⑭全体の復習
- ⑮総括、確認テスト

【授業外学修】

- ①事前に配布した「語彙表」に載っている語句について調べてくること。
- ②次回の練習問題を解いてくること。

- ③配布した新聞記事等の資料は自分で語彙・文法を調べてくること。
- ④教科書の練習問題を解きながら復習すること。
- ⑤毎回指示がなくても勉強した語彙・文法について復習すること。

【アクティブラーニング】

第2回～第8回、第10回～第13回は様々なタスクやバラエティに富んだ内容の練習問題を用いてシンク・ペア・シェア、グループディスカッションなどを行い、速読の練習をする。

履修上の注意/Notes

- ①2/3以上出席しない場合は不合格とする。
- ②遅刻3回は欠席1回とみなす。
- ③30分以上の遅刻は欠席とみなす。

情報端末の活用

授業でPC等は使用しない

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標①②③を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
- A：到達目標①②③を達成し、優れた学修成果を上げている。
- B：到達目標①②③の学修成果を概ね達成している。
- C：到達目標①②③の最低限の到達目標に届いている。
- D：到達目標①②③に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

- ①授業への貢献度20%②確認テスト70%③提出物・課題10%④16回目に期末試験を行わない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中・上級者のための速読の日本語 第2版
著者名	岡 まゆみ
出版社	ジャパンタイムズ
出版年	2013
ISBN	9784789015189
教材費	

備考 適宜、新聞記事、新聞折込広告・新聞折込チラシなどを配布する。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解

○

専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7602	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡA				
担当教員（ローマ字表記）	権 賢貞				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡA

授業の概要/Course Overview

1. 様々なジャンルの視聴覚教材を用いて聴解力の向上をはかる。
2. 様々なジャンルにおける現代日本語の口頭表現を学習する。
3. 日本社会における様々なテーマを扱った視聴覚教材の視聴を通して日本文化・日本事情を学ぶ。
4. 視聴した視聴覚教材の内容をまとめるとともに、その内容に対する自分の意見についてグループ・ディスカッションを行う。
5. 関心のあるジャンルの視聴覚資料を選び、その内容をまとめて発表する。

キーワード/Keyword(s)

聴解、聴解力、自己表現力、聴解ストラテジー、アカデミック・ジャパニーズ、視聴覚教材、日本社会、日本文化、日本事情

到達目標/Learning Objectives

1. 聴解ストラテジーを身につけ、視聴した内容を正確に理解できる。
2. 様々なジャンルの口頭表現を通じてジャンルに応じて表現が変化することが理解できる。
3. 視聴覚資料の内容をまとめるとともに、その内容に対する自分の意見を発表することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 授業ガイダンス、聴解力チェック、ウォーミングアップ
- 第2回 ニュースを視聴する①
- 第3回 ニュースを視聴する②
- 第4回 ニュースを視聴する③
- 第5回 ドキュメンタリーを視聴する①、確認テスト①
- 第6回 ドキュメンタリーを視聴する②
- 第7回 ドキュメンタリーを視聴する③
- 第8回 映画を視聴する①、確認テスト②
- 第9回 映画を視聴する②
- 第10回 映画を視聴する③
- 第11回 学術番組を視聴する①
- 第12回 学術番組を視聴する②
- 第13回 発表①
- 第14回 発表②
- 第15回 まとめ、確認テスト③

【授業外学修】

1. 授業時に配布した語彙リストやハンドアウトを利用して復習する。
2. 授業時に学んだ語彙や表現をまとめるとともに、例文をノートに整理する。
3. 授業時に語彙リストのなかで日本語の説明だけではその意味が分からなかった場合、母語でその意味を調べて復習する。
4. 授業時に学んだ聴解ストラテジーを利用し、様々なジャンルの番組を視聴してみる。
5. 授業時に学習した語彙や表現が含まれた箇所をシャドーイングすることで実際の会話での使用をも試みる。

【アクティブラーニング】

第2回～第12回（映像活用学習とペア・ディスカッション）

- ・ 提示された視点からメモを作りながら視聴覚教材を見る。各自作ったメモ内容についてペア・ディスカッションする。

第13回と第14回（グループ・ディスカッション）

- ・ 各自選んだ映像に関するプレゼンテーションを行う。
- ・ 発表者のプレゼンテーション内容について質疑応答を行うことで意見交換をする。

履修上の注意/Notes

1. 2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
2. 遅刻は3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。
3. 授業中のグループ・ディスカッションに積極的に参加する。
4. 課題はDream Campus上で作成し提出する。
5. 履修者数等により、授業内容を調整することがある。
6. 質問などには授業後に教室にて対応する。

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A：到達目標の3点について高いレベルで達成されている。
B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C：到達目標の3点について最低限のレベルで達成されている。
D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト60%、提出物・授業貢献度20%、発表20%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本語生中継：聞いて覚える話し方
著者名	梶本総子, 宮谷敦美 共著
出版社	くろしお出版
出版年	2004

ISBN	9784874243008
教材費	2200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7603	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡB				
担当教員（ローマ字表記）	権 賢貞				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語IIB（アカデミック・ライティング）

授業の概要/Course Overview

1. レポート・論文を書くための適切な日本語の表現技術（文法・文体・書式等）を学ぶ。
2. 論理的な文章の展開を意識した600字程度の作文課題を数回提出する。
3. 作成した作文についてピア・エディティングを行うことで問題を見つけ合うとともに、問題を解決していく。
4. 自分の関心のあるテーマを選び、資料収集、レポートのアウトラインの作成原稿執筆、推敲などの過程を経て2000～3000字のレポートを完成する。

キーワード/Keyword(s)

レポート、レポート作成、アカデミック・ライティング、原稿執筆、論理的表現形式、書き言葉の表現、資料収集、引用

到達目標/Learning Objectives

1. レポート・論文を書くための適切な日本語の表現技能（文法・文体・書式等）を身に着ける。
2. レポート・論文に多用される表現形式を使用し、自分の考え方が論理的に表現できる。
3. 2000～3000字のレポートが書ける。
4. プレインストーミングやシンク・ペア・シェア、ピア・エディティング等を通じて課題解決能力を高める。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス、レポートの構成について学ぶ、作文(1)を執筆
- 第2回 表記の仕方の注意点を学ぶ、作文(1)のピア・エディティングを行う
- 第3回 文体と書き言葉の違いを学ぶ、書き言葉の表現を学ぶ
- 第4回 レポート作成時に間違えやすい助詞について学ぶ、文献の探し方、文献リストの作成の仕方を学ぶ
- 第5回 言葉の形の使い分けについて学ぶ、確認テスト①
- 第6回 自動詞・他動詞・受身形の使い方について学ぶ、レポートのテーマを決める
- 第7回 呼応について学ぶ、仮のアウトラインを作成する
- 第8回 文末表現の調整について学ぶ、アウトラインを修正する
- 第9回 引用の仕方を学ぶ、メモ付きアウトラインを作成する
- 第10回 引用練習をする、作文(2)を執筆
- 第11回 作文(2)フィードバック、確認テスト②
- 第12回 接続表現・名詞句化について学ぶ、第一原稿作成
- 第13回 原稿をピア・エディティングする、レジユメの作り方について学ぶ
- 第14回 レポート内容の発表
- 第15回 レポート内容の発表、全体の振り返り

【授業外学修】

1. 授業時に配布するプリントを事前に読んで理解した上で授業に臨む。
2. 第1～10回の授業時に配布した練習問題を用いて復習する。
3. 授業時に学んだ文章表現について自分ノートを作ってまとめる。
4. レポートのテーマを決めた後、テーマ関連の参考文献を取集し、授業に参加する前に精読しておく。
5. 修正した作文は修正箇所がわかるようにメモを付けておく。
6. 取集した参考文献を授業で学んだ形式を参照し、文献リストを作成する。
7. 授業で作成した成果物は、必要な時参照できるよう、ポートフォリオにして各自まとめておく。最終授業の「振り返り」で参考資料とする。

【アクティブラーニング】

第2回と第13回 (ピア・エディティング)

・作文(1)、(2)については、次の時間にペアで互いに作成した文章にコメントをし合う。その結果および教師の添削・コメントを踏まえて書き直す。

第4回～第15回(PBL)

・各自テーマを決め、調査研究をし、その結果をレポートにまとめ発表する。その過程でブレインストーミングやシンク・ペア・シェア、ピア・エディティングを通して問題を見つけ合い、各自解決していく。

・授業時に学んだ文章表現に基づいて、第1～10回まで毎回課される課題を解決する。

履修上の注意/Notes

1. 2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
2. 遅刻は3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。
3. 授業中のシンク・ペア・シェア、ピア・エディティングなどの活動に積極的に参加する。
4. 課題はWORDで作成し、必ず次の授業時にプリントアウトして提出する。
5. 履修者数等により、授業内容を調整することがある。
6. 質問などには授業後に教室にて対応する。

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標の4点について高いレベルで達成されている。
- B : 到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C : 到達目標の4点について最低限のレベルで達成されている。
- D : 到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

課題(作文・発表など)30%、最終レポート30%、確認テスト30%、授業貢献度10%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	留学生のためのここが大切文章表現のルール：中上級日本語学習者対象
著者名	石黒圭, 筒井千絵 著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	2009
ISBN	9784883195022
教材費	1600

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="checkbox"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="checkbox"/>
社会人としての姿勢	<input type="checkbox"/>
地域活性化志向	<input type="checkbox"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7604	ナンバリング	KB-JPN-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	月3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡB				
担当教員（ローマ字表記）	八若 壽美子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡB(アカデミック・ライティング)

授業の概要/Course Overview

1. レポート作成に必要な文章表現の技術(文法・文体・書式等)を指導する。
2. 論理的な文章の展開方法を意識した600字程度の作文課題を数回課す。
3. 自分の関心のあるテーマを選び、資料収集、アウトラインの作成、原稿執筆、推敲等の過程を経て、2000～3000字のレポートを作成する。

キーワード/Keyword(s)

レポート、論理的表現形式、文章表現、レポート作成過程、引用

到達目標/Learning Objectives

1. レポート・論文作成に必要な文章表現の技術(文法・文体・書式等)を理解し、活用できる。
2. レポート・論文に多用される表現形式を使用し、論理的に自分の考えが表現できる。
3. 2000～3000字のレポートが書ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回[授業内容] シラバスを用いたガイダンス、表記の仕方の注意点を学ぶ、作文(1)を執筆(シンク・ペア・シェア)
 [授業外学修] 文体・書き言葉の予習問題をする
- 第2回[授業内容] 文体と書き言葉の違いを学ぶ、作文(1)のピア・エディティングを行う(ピア・エディティング)
 [授業外学修] 書き言葉的表現 問題、作文(1)の書き直しをすること
- 第3回[授業内容] 書き言葉的表現を学ぶ (シンク・ペア・シェア)
 [授業外学修] 書き言葉的表現・練習、助詞の使い方・予習問題をしておくこと
- 第4回[授業内容] レポート作成時に間違えやすい助詞について学ぶ、情報の探し方、文献リストの作成の仕方を学ぶ (シンク・ペア・シェア)
 [授業外学修] 助詞の使い方・練習、言葉の形の使い分け・予習問題をする、レポートテーマを考える
- 第5回[授業内容] 言葉の形の使い分けについて学ぶ、確認テスト①(第2～4回予習問題・練習から) (シンク・ペア・シェア)
 [授業外学修] 言葉の形の使い分け・練習、自動詞・他動詞・問題、レポートテーマ決定し発表できるようにしておくこと
- 第6回[授業内容] 確認テスト①フィードバック、自動詞・他動詞・受身形の使い方について学ぶ、レポートテーマ発表 (シンク・ペア・シェア) (PBL)
 [授業外学修] 自動詞・他動詞・練習、呼応・予習問題、仮アウトラインを作成する
- 第7回[授業内容] 呼応について学ぶ、仮アウトライン発表(シンク・ペア・シェア) (PBL)
 [授業外学修] 呼応・練習、文末表現の調整・予習問題をする
- 第8回[授業内容] 文末表現の調整について学ぶ、レポートの構成について学ぶ (PBL)
 [授業外学修] 文末表現の調整・練習をする、メモ付アウトラインを作成し始めること

第9回[授業内容] 引用の仕方を学ぶ (シンク・ペア・シェア)

[授業外学修] 引用練習、メモ付アウトラインを完成し発表できるようにしておくこと

第10回[授業内容] メモ付アウトライン発表、作文(2)を執筆 (PBL)

[授業外学修] 確認テスト②のための復習

第11回[授業内容] 作文(2)フィードバック、確認テスト②(第5～第9回問題、練習から) (ピア・エディティング)

[授業外学修] フィードバックを踏まえ、作文(2)を書き直すこと、第一原稿を作成し始めること

第12回[授業内容] 確認テスト②フィードバック、接続表現・名詞句化について学ぶ (シンク・ペア・シェア)

[授業外学修] 第一原稿を完成させること

第13回[授業内容] 原稿をピア・エディティングする、レジメの作り方について学ぶ(ピア・エディティング)(PBL)

[授業外学修] ピア・エディていんく等を踏まえ最終原稿を作成すること、発表用のレジメを作成すること

第14回[授業内容] レポート内容の発表 (PBL)

[授業外学修] 最終原稿を完成し提出すること

第15回[授業内容] レポート内容の発表、全体の振り返り(PBL)

履修上の注意/Notes

2/3以上の出席がない場合は不合格とする。遅刻3回=欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とみなす。

オフィスアワー: 月・4

履修者数等により、授業内容を調整することがある。

情報端末の活用

課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : アカデミックライティングの基本的な知識・スキルを十分に修得し、論理的で説得力のあるレポートが書けている。

A : アカデミックライティングの基本的な知識・スキルを修得し、論理的なレポートが書けている。

B : アカデミックライティングの基本的な知識・スキルを概ね修得し、求められる内容のレポートが書けている。

C : アカデミックライティングの基本的な知識・スキルを最低限の修得をしているが、論理的に考えが述べられていない。

D : アカデミックライティングの基本的な知識・スキルが修得できておらず、求められる内容のレポートが書けていない。

成績の評価方法/Grading

課題(作文・発表等)30%、最終レポート30% 確認テスト30%、授業貢献度10%

上記の比率で総合的に評価する。16回目に期末試験を行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	授業時にプリント等を配布する。
----	-----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	留学生のためのここが大切 文章表現のルール
著者名	石黒圭他
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	2009
ISBN	9784883195022

教材費	1600
-----	------

参考書2

書名	大学・大学院留学生の日本語
著者名	アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著
出版社	アルク
出版年	2001
ISBN	4757405006
教材費	1400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="checkbox"/>
社会人としての姿勢	<input type="checkbox"/>
地域活性化志向	<input type="checkbox"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="checkbox"/>

PBL科目

<input type="checkbox"/>

地域志向科目

--

使用言語

その他(日本語)

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7605	ナンバリング	KB-JPN-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語IIC				
担当教員（ローマ字表記）	村上 雄太郎				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語 IIC（発展）

授業の概要/Course Overview

日本語を外国語として習得しようとする人にとって特に難しいと思われる文法的・発想的な問題点を説明する。

キーワード/Keyword(s)

変化、視点、伝聞、付帯状況、接続

到達目標/Learning Objectives

初級文法を復習した後、さらに中級文法を学び、大学の授業を理解できるようになること。具体的には、レポートや学術論文等の論説文を読むのに必要な文法知識や表現文型に関する知識などを学びながら、各自の専門分野の論文を独力で読んでいくための読解力を身につけること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回目 授業の進め方について
 - 第2回目 伝聞を表す表現文型「～によれば、～という」等
 - 第3回目 変化を表す表現文型「てくる」や「ていく」
 - 第4回目 変化を表す表現文型「につれて」や「にしたがって」
 - 第5回目 視点を表す表現文型「にしてみれば」や「にしては」
 - 第6回目 視点を表す表現文型「にしても」
 - 第7回目 名詞修飾の表現
 - 第8回目 付帯状況を表す表現文型「～をはじめ」等
 - 第9回目 付帯状況を表す表現文型「～を限りに」等
 - 第10回目 自動詞表現と他動詞表現の使い方の違い
 - 第11回目 受動・可能・自発などの表現
 - 第12回目 使役の形と意味・機能
 - 第13回目 否定の表現「わけがない」や「はずがない」
 - 第14回目 「ように」を使った表現
 - 第15回目 接続の表現「～に対して」や「～わりに（は）」
- 期末試験

第2～4回目、第7～9回目と第12～第14回目の各回で、授業の最初に「復習小テスト」を行なう。

また、授業の最後に、その日の内容の問題演習を行ない、課題を与える。提出された課題は、採点しコメントをつけて次の授業で返却する。

「知識の習得」ではなく「知識の活用」を身につけるという目標があるため、「主体的」に学修することが求められます。具体的には実際に起こった出来事に登場する主人公になったつもりで考え、クラスで議論するのです。登場する主人公は何らかの意思決定に直面しており、もし自分が当事者であったならば、与えられた状況でどう行動するかを考え、グループで議論し、クラスで話し合うことになります。

【授業外学修】

- ・ 指定した参考資料を事前に読んでおくこと。
- ・ 授業終了時に示す課題については調べておくこと。
- ・ 自分が関心を持った分野の文献に目を通すこと。
- ・ 次の時間は、予習がされているものとして授業を進行する。

次回の授業範囲の予習と前回の授業内容の復習を前提とした演習に、講義を加える。

- ・ 次回の授業範囲を予習し、学術用語や慣用語句の意味などを理解しておくこと。
- ・ 毎回の学習内容の難易度による差や自学習の慣れ・不慣れ等による個人差があると思われるが、「復習小テスト」のための復習は1時間以上になると推定される。

その他に、期末試験があり、それぞれ十分時間をかけて準備するようしておくこと。

- ・ 「国際語としての日本語の発想」も履修することが望ましい。

履修上の注意/Notes

- ・ 予習と復習をする必要がある。
- ・ 2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ・ 遅刻3回で1回欠席とする。30分以上の遅刻は欠席とする。
- ・ オフィス・アワー：水曜日、午後4時～5時半まで

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 発展的な学術日本語の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 発展的な学術日本語の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 発展的な学術日本語の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 発展的な学術日本語の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 発展的な学術日本語の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業への積極的参加を重視する。復習小テストや授業への貢献度などの（20%）、期末試験（80%）で評価する。16回目に期末試験を行う。

教科書/Textbook(s)

備考	授業時にプリント等を配布する。
----	-----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本語文法のしくみ
著者名	町田健&井上優著
出版社	研究社
出版年	2002
ISBN	4-327-38301-5
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="checkbox"/>
社会人としての姿勢	<input type="checkbox"/>
地域活性化志向	<input type="checkbox"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7651	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語 I				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学術日本語 I（応用）

授業の概要/Course Overview

1. 大学の授業に必要な論文、専門書、専門分野のレポートなどの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を学ぶ
2. 読んだ内容についてまとめ、ディスカッションを行う
3. 授業で学んだ文章構造の知識を使い、小論文を書く

キーワード/Keyword(s)

読解、要約、内容理解、読解技術、多読、学術日本語

到達目標/Learning Objectives

1. 論文、専門書などの論理的な文章を読むための読解技術を身につけ、内容を理解することができる。
2. 論文などの学術日本語の文章の構造を分析的に読むことができる。
3. 文章構造、論理構造に関する知識を生かし、小論文を書くことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション、言葉の役割
- 第2回 イルカと超音波
- 第3回 地図の分類
- 第4回 睡眠時間—短眠と長眠
- 第5回 研究者の二つのタイプ
- 第6回 風呂場の戸
- 第7回 手で数を表す
- 第8回 確認テスト①
- 第9回 文明はどのように伝わったか—1「茶」
- 第10回 文明はどのように伝わったか—2「タとハタケ」
- 第11回 カラスの自動車利用行動
- 第12回 台湾南部の客家社会についての一考察
- 第13回 人間とロボットの強調動作に関する研究
- 第14回 小論文の発表①
- 第15回 小論文の発表②、確認テスト②

【アクティブ・ラーニング】

- ・第1～7回、第9～13回：トピックの内容や関連事項等についてグループ・ディスカッション（シンク・ペア・シェア等）を行う。
- ・第8回に1回～7回まで、第15回に9～13回までで学習した表現や構造、文法等について確認するための「確認テスト」を行う。

・第14回・15回は自分で決めたテーマに関する小論文の発表を行う。

【授業外学修】

授業前の予習について：

- ・教科書の語句リストを見て、読み方と意味を確認する。
- ・語句リストに載っていない語句でわからないものがあれば調べておく。
- ・教科書の音声教材を聞き、同じ速度で読めるように練習する。
- ・教科書の練習問題をやっておく。

復習について：

- ・再度テキストを読む。声に出して読むことが望ましい。
- ・練習問題の解答を確認しておく。
- ・授業で出す課題（作文）をやる。

履修上の注意/Notes

1. 読むだけでなく、読んだ内容に対して自分の考えを発表できるようにしてください。
2. 3回遅刻した場合は、1回欠席したものとみなします。
3. 2/3以上の欠席は不合格とします。
4. 指定の教科書『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』（税込1,760円）を購入すること。
※学部留学生は、ブレースメントテストの結果により、条件を満たした学生のみ受講可能です。

情報端末の活用

- ・授業で課す小論文については、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A：到達目標の3点について高いレベルで達成されている。
B：到達目標の3点についておおむね高いレベルで達成されている。
C：到達目標の3点について最低限のレベルで達成されている。
D：到達目標のうち1点以上において全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

- 確認テスト60%、課題15%、発表15%、授業貢献度10%
期末試験は実施しない。
* 授業貢献度：教科書を持ってこない、不必要なスマホの使用、迷惑になる私語等は減点対象となる。
積極的な発言や質問等は加点対象とする。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	大学・大学院留学生の日本語 = Japanese for International College/Graduate Students
著者名	アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著
出版社	アルク
出版年	2015
ISBN	978-4757426313

教材費	1600
-----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7652	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡA				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡA(応用)

授業の概要/Course Overview

- ① 大学の授業に必要な速読、要約、内容理解の技術を学ぶ。
- ② 論文、専門書、新聞記事などを読む。
- ③ 各自が好きな読み物を選んで読み、授業でディスカッションを行う。

キーワード/Keyword(s)

速読、要約、多読、内容理解、学術日本語

到達目標/Learning Objectives

- ① 大学生生活および日常生活に必要な読解力および表現技術を身につけ、より早く正確に読めるようになる。
- ② 論文等の学術日本語を分析的に読み、文章の構成と論旨が理解できる。
- ③ 読んだ内容を要約し、自分の意見を述べるができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】ガイダンス
- 第2回：【授業内容】第1課 異文化適応
【授業外学修】第1課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第3回：【授業内容】第2課 いじめ
【授業外学修】第2課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
学期末に発表する本を一冊選び、授業に持ってくる。
- 第4回：【授業内容】第3課 衝動買いを誘導する
【授業外学修】第3課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第5回：【授業内容】第4課 おいしい食感の理由
【授業外学修】第4課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第6回：【授業内容】第5課 日本人の意識
【授業外学修】第5課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第7回：【授業内容】第6課 フリーター問題
【授業外学修】第6課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第8回：【授業内容】確認テスト1 テキスト精読
【授業外学修】確認テストのための復習、今までの漢字語彙、表現の復習を行い、本文を熟読する。
- 第9回：【授業内容】第7課 安全でおいしい水を飲むために
【授業外学修】第7課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第10回：【授業内容】第8課 「まじめ」という言葉

【授業外学修】第8課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。

第11回：【授業内容】第10課 論文を読む①

【授業外学修】第10課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。

第12回：【授業内容】第11課 論文を読む②

【授業外学修】第11課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。

第13回：【授業内容】確認テスト2 テキスト多読

【授業外学修】確認テストのための復習、今までの漢字語彙、表現の復習を行い、本文を熟読する。

第14回：【授業内容】ブックレポート発表

【授業外学修】ブックレポートの準備、A4サイズ1ページに読んだ本に関する情報をまとめる。

第15回：【授業内容】ブックレポート発表

【授業外学修】ブックレポートの準備、A4サイズ1ページに読んだ本に関する情報をまとめる。

【アクティブラーニング】

第2回から第12回の授業では、シンク・ペア・シェア、ピア・インストラクション、ディベートなどを用いて、読んだ内容に関する理解を深めていく。

第14回と15回のブックレポートでは、各自が読んだ本に関するプレゼンテーションを行い、質疑応答を交えながら本の紹介を行う。

履修上の注意/Notes

①読むだけでなく、読んだ内容に対して自分の考えを発表する。

②2/3以上の出席がない場合は不合格とする。

③遅刻3回で1回欠席とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

情報端末の活用

授業でPC等は使用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+:到達目標の3点について極めて高レベルで達成されている。

A:到達目標の3点について高レベル以上で達成されている。

B:到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C:到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。

D:到達目標の3点について達成されていない。

成績の評価方法/Grading

① 提出物・授業貢献度（20%）

② ブックレポート・発表（20%）

③ 確認テスト①&②（60%）

* 16回目の期末試験は実施せず、上記の項目で評価を行う。

* 授業貢献度：教科書を持ってこない、不必要なスマホの使用、迷惑になる私語等は減点対象となる。

積極的な発言や質問等は加点対象とする。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	(改訂版) 留学生の日本語：論文読解編
著者名	アカデミックジャパニーズ研究会
出版社	アルク
出版年	2015

ISBN	9784757426337
教材費	1800

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他（日本語）

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7653	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡC				
担当教員（ローマ字表記）	松田 勇一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡC（口頭表現）

授業の概要/Course Overview

口頭発表の基本的な知識を身に付け、実際に複数回発表を行う。また、クラス内において社会における身近な話題を取り上げ、ディスカッションを行う。最終発表では、パソコン作成したスライドをもとに発表を行い、質疑応答を行う。

キーワード/Keyword(s)

口頭発表・スピーチ・ディスカッション・プレゼンテーション・質疑応答・スライド発表

到達目標/Learning Objectives

- 1.ゼミなどにおいて、口頭で内容を分かりやすく伝えることができる。
- 2.ディスカッションの場において、他人の意見を聞き、それに対する自分の意見を明確に述べるができる。
- 3.分かりやすいスライドを作成し、発表することができる。
- 4.口頭発表において適切な質疑応答をすることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いた授業ガイダンス
- 第2回 自己紹介のための表現技術を学ぶ。
- 第3回 自己紹介を行う。（自分の所属・専門、日本留学の動機、性格、夢について話す。）
- 第4回 ビデオを用いたフィードバック
- 第5回 スピーチ「身近な社会問題」のための表現技術を学ぶ。
- 第6回 スピーチ「身近な社会問題」を行う。
- 第7回 ビデオを用いたフィードバック
- 第8回 ディスカッション「地球温暖化」のための表現技術を学ぶ。
- 第9回 ディスカッション「地球温暖化」を行う。
- 第10回 プレゼンテーションの基礎表現とプレゼンテーションに必要な表現
- 第11回 スライドの作り方とスライドを用いた発表の方法
- 第12回 プレゼンテーションにおける話し方と態度
- 第13回 発表「これからの研究」と質疑応答を行う。
- 第14回 発表「これからの研究」と質疑応答を行う。
- 第15回 フィードバック

【授業外学修】

第3回の「自己紹介を行う」では、自分の所属・専門、日本留学の動機、性格、夢について発表するので、話す内容を準備しておく。

第6回の「スピーチを行う」では、身の回りの社会問題について発表するので、新聞、雑誌、インターネット等からの情報をまとめ、話す内

容を準備しておく。

第9回の「ディスカッションを行う」では、地球温暖化について自分の意見を発表するので、新聞、雑誌、インターネット等からの情報をまとめ、話す内容を準備しておく。

第13・14回の「発表」では、自分がこれから研究したいこと、現在の研究内容等について、パワーポイントを用いた発表を行うので、その準備をしておく。具体的には、発表原稿の作成、写真や動画の収集、パワーポイントのファイル作成である。発表時間は、1人およそ15分、質疑応答5分程度である。

各発表後には、ビデオに収めた発表風景を観察し、自らの発表態度、話し方、声の大きさ等を確認する。また、話し方、発音等の指導を行うので、各自練習することが望まれる。

【アクティブ・ラーニング】

第3回、第6回、第9回、第13回、第14回、では、「発言カード」、「発言チップ」を用いて質疑応答やディスカッションを進める。第4回、第7回、第15回は、ビデオ撮影した発表風景を観察し、自分の発音、姿勢等について自己評価を行い、「ミニツツペーパー」を作成する。第2回、第5回、第8回、第10回～第12回は、文法表現の問題等に関して、「ソクラテス式問答」、「ピア・インストラクション」を通じて知識の確認を行う。

履修上の注意/Notes

○スライドは、パソコンを用いて各自作成するため、PCリテラシーを要する。

○授業においてビデオ撮影したデータは、個人情報保護のため、学生には渡さない。

○出席は3分の2以上が必須。 ○遅刻は授業開始29分以内とし、30分以後は欠席扱いとする。

○遅刻3回で欠席1回とみなす。 ○質問は、電子メールにて受け付ける。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の4点について高いレベルで達成されている。

B：到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の4点について最低限のレベル以上において達成されている。

D：到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

授業貢献度30%、提出物30%、発表40% 16回目の期末試験は実施せず、上記の項目で評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	アカデミックプレゼンテーション入門：最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための
著者名	三浦香苗, 岡澤孝雄, 深澤のぞみ, ヒルマン小林恭子 著
出版社	ひつじ書房
出版年	2006
ISBN	9784894763371
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	プラクティカル・プレゼンテーション
著者名	上村和美, 内田充美著
出版社	くろしお出版
出版年	2008
ISBN	9784874244265
教材費	1540

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--